コロナ禍で発揮した患者との信頼関係
安定した医療で利用者に安心を

新年を迎えるにあたり、耳原総合病院の河原林病院長と介護事業部の甘田部長が、「これからの同仁会」というテーマで対談しました。

コロナ禍を振り返って
―奮闘や苦労

医療現場では

河原林　最初はウイルスの正体がわからず、本当に手探りでした。次々新しい情報が出て、正解がない中で知識や経験を持ち寄って、院内ルールを作りながら、感染の疑いがある人を受け入れて検査をするところまででした。第2波、第3波はちょうど冬の時期で、通常の救急医療・診療とコロナ対応両立に、非常に苦労しましたね。第4波の時は、「医療崩壊」と報道されましたが、専用の病棟を立ち上げ、重症化した方の受け入れも決断したことで相当、混乱しました。その後、第5波は、重症の方は少なくなりましたが、若い方が中心で、入院期間も短くなり、高回転で入退院を管理していくこととなりました。そうした波が来るたび、対応の中身を変えていくことが一番大変でした。

在宅部門では

甘田　はじめは、何が起こっているのかわからない、在宅・介護として、どんな対応をしていけばいいのか…そんな想いでした。

老健みみはらは、病院を退院してから安定して自宅に戻るまでを受け入れ、「地域になくてはならない施設だ」と実感しましたし、クラスターを出さなかったことは、最良でした。

介護の場面ならではの苦労

河原林　医療というより、生活を支える場で感染対策の大変さはありましたか?

甘田　利用者さんに感染させてしまったら…この不安は相当なもので、最初のころは、マスク・アイシールドを着けて行くと、「菌扱いして～、大丈夫やで」って言われることもありました。でも、そうではないと、私たちが持ち込んではいけない、お互いにリスクを最小限にしなくてはいけない「マスクは大事」―その説明からでした。

河原林　そうですか。それに対して反発されるとか、利用がそれで減ってしまうとかありましたか?

甘田　少なかったです。今まで築いてきた信頼関係が、ここで発揮されるんだなと感じました。

河原林　普段の信頼があり、理解してもらえたということですね。病院でいうと、リハビリのセラピストも直接患者さんと触れ合うのが仕事だという自覚をもって、徹底的にやってくれたんです。それが他の職種にも伝わって、すごく良い影響を与えてくれました。

第4波医療崩壊の中で医療と在宅部門の連携

甘田　連携というと、総合病院が大変な状況で、カンファレンスはさらに難しくなりました。在宅側は、細かな情報をもらって、最大限の想像で退院後の生活を支えることを考えました。

河原林　病院は入院期間がどんどん短くなるので、家での状況など、非常にわかりづらいです。普段、患者さんと関わりが多い介護分野から情報がうまく伝わる仕組みがしっかりできれば、状況もよくなるかと思います。

友の会の協力も大きな力に

河原林　手づくりのガウン、マスクの寄付、それは一番記憶に残っていますね。非常にありがたかった。病院を利用されるみなさんに、かなり不便をおかけしました。冷静に受け止めていただいて、大きな混乱なく対応していただきました。物資だけじゃなく、励ましのお言葉も含めて、支えていただいたという気持ちが大きいです。

甘田　自分のことを一番に考えるのが当然な時に、友の会の方が職員のことを考えてくれたことに感激しました。体調不良の利用者さんへの訪問。デイに来られて、熱が出てきた、コロナかもしれない…そんな時に、エプロンを着用して対応ができて、本当に感激でした。

これからの課題や目標

河原林　病院の短期的なところでいうと、たとえ感染がまた増えたとしても、通常の医療を並行して維持していかなければいけないというのがあります。中長期的なところでいうと、検診受診者の回復です。全国的に見てもガン検診は、2割ぐらい受診者が減っているというデータがあり、その分、おそらく早期発見されるガンは、少なくなっているので大事なことです。慢性疾患でかかっていて、偶然発見されたとかも多いので、受診が減ると、偶然発見されるガンも減ってしまいます。日本対がん協会の発表では、2020年のがん診断数は前年から1割近く減っていたそうで、検診を取り戻して、ガンの早期発見、早期治療に繋げるのがこれからの大きな課題かなと思います。

甘田　在宅部門は安定した事業の継続、これに尽きます。生活を継続するために何が必要かというところ。まずは人材確保です。

河原林　「介護職の求人の倍率は高い」と言いますね。

甘田　「人生の最期は、住み慣れた場所で」と、訪問診療の需要は高まっています。ケアマネジャーは家族がいなくても、地域で暮らすことを考えてプランを組むので、状態が完全に安定しないと、在宅生活を継続するのはやはり難しいです。

みみはらグループが人生を通じてサポート

甘田　「耳原があってよかった」って、みんなが役割をもってやっていかないといけないなって思います。

河原林　どうしても急性期病院の役割や機能があるので、病院だけで把握できることでもありません。病院以外の事業所、関わる職種も全体で情報を共有できれば、グループ全体で患者さんをサポートしていけるんじゃないかな。

甘田　医療と介護の連携って、当たり前のように使われていますけど、医療側は医療が分かっていて、介護側は介護のことが分かっていて当たり前。よい連携とは、その力が合わさっていくことだと思うんです。それぞれ違う意見もあるけど、目的は一緒なので、医療と介護の考えは、そんなに乖離しているものではないと思っています。

河原林　患者さんにしてみたら、「病院も介護もみんな、自分のことわかってくれているはずや」ということですね。「全体で支えていく」っていう観点がやっぱりいるんでしょうね。

甘田　病気を治せば、もちろんその後の療養が必要で、その状態をキープしていく、生活していくことが必要であり、全部なくてはならないものですから。みんなが自分の立場に振り返って考えれば、おのずと目指す答えは出てくるんじゃないのかなと思うんですけどね。

友の会・地域のみなさんへ

河原林　この1～2年、コロナで振り回されて、通常医療もこれまで通りにできなくなり、なんとか頑張ってきました。友の会の皆さんも、通常の活動が非常に難しくなって、集まれずにさみしい思いや不自由な思いをされてきたと思います。

友の会は、ゆるやかなつながりが非常にいいところと思っていて、ちょっと健康の情報を交換したり、お菓子を食べて雑談したり、つながりを保てる力を持っている組織ですよね。感染はゼロにならないけど、ワクチン接種も進んで、友の会活動も少しずつ再開されていくと思うので、ゆるやかなつながりを大切にしてほしいです。病院としても健康維持とか、治療で友の会や地域の皆さんのお役に立てるように、引き続き頑張っていきます。

甘田　利用者さん、地域の方々、そしてご家族や自分自身を大切にしていきたいと思っています。病気とかケガの時はもちろんですけど、総合的な支援ができて、「耳原があるから安心」と思ってもらえるように、頑張りたいと思っています。一人の力は微力ですけど、皆さんと力を合わせて、心にゆとりを持ちながら、冷静さを失わずに、でも止まっていてはいけない、行動できる年にしていきたいと思っています。

4つのステートメント(案)　❼

性の多様性を認め合える組織へ

同性婚を認めないことは違憲

「性の多様」というテーマについて理解を深める目的で、同性婚を認めない民法は憲法違反がどうかが争われた札幌地裁での裁判の判決文(2021年3月17日)を少し紹介します。

判決に至る過程で、同性愛に関する医学や心理学の知見、婚姻に関する明治民法と戦後の改正民法での議論、同性愛の日本の公教育での取扱い、諸外国の同性愛・同性婚の法制化などの流れ、そして国内の同性愛・同性婚に対する意識調査について丁寧に検討されており、性の多様について理解を深めるうえで学びが多い内容です。

一つ目に、性的指向とは、人が情緒的、感情的、性的な意味で、人に対して魅力を感じることであり、このような恋愛・性愛の対象が異性に対して向くことが異性愛、同性に対して向くことが同性愛となるのであって、人の意思によって、選択・変更し得るものではないということです。

二つ目に、医学の世界において、同性愛は長らく病気として取り扱われてきました。精神疾患であることを理由に、「正常な婚姻関係を営むことができない」「治療すべきもの」と考えられていました。1980年代～90年代にその考えは否定され、1987年にアメリカの精神医学会、そして世界保健機関(WHO)も1992年に疾患から削除しています。30年以上前のことです。

「病気ではない」とされたことにより、「婚姻関係を営むことができない」という考え方の根拠がなくなりました。

(2月号へ続く)

(社会医療法人　同仁会　副専務理事　森　高志)

4つのステートメント(案)

- ＊同仁会はジェンダー平等の社会を推進します
- ＊(仮称)性の多様性を認め合える組織へ
- ＊互いを尊重しあい、ハラスメントが発生しない職場づくりをめざそう
- ＊平和、地球環境、人権を守る運動を現場・地域から広めよう

理事会報告

11月理事会〈概要〉

開催日時
11月25日(木)
午後6時～8時
出席・理事26名
監事3名

〈主な内容〉

◆報告
・拡大常任理事会、各種委員会概要
・健康友の会みみはら、社保・平和のとりくみ報告
・無料低額診療の各事業所実績とラジオコマーシャル実施の報告
・2021年10月度決算概要
・主要管理者会議の報告

◆協議確認事項
・理事、監事、評議員研修会のタイムテーブルについて提案し、承認された。
・みみはらグループ新年集会開催について提案し、承認された。

社会医療法人　同仁会
(耳原総合病院)
2022年入学看護学生対象
Web看護奨学金説明会

1月22日(土)
2月19日(土)
3月5日(土)
各日とも
①9：30～10：50
②11：00～12：20

〈Web〉Zoomを使用(事前にアプリ取得が必要です。Zoom招待は申込後にお知らせします。Wi-Fi環境がない場合など、ご相談ください)
〈申　込〉右上のQRコードからお申込ください。各日程の5日前まで受付。いずれも10人を定員といたします。
〈申込先〉メール：kangakusei@mimihara.co.jp
電　話：072－241－0501
住　所：堺市堺区協和町4丁465
耳原総合病院の看護学生担当に「看護奨学金説明会の申込をしたい」とお伝えください。

薬剤師(常勤)急募

薬剤師として
地域に
貢献しませんか？

勤務地：堺市堺区協和町4丁465
耳原総合病院　薬剤科

詳しくは→
薬剤師募集項目を
ご覧ください。

連絡先(人事部)　072-244-7260